



いやし、お茶、食事、音楽がそろった楽しい空間

春の小田川に素敵なオープンカフェ 「カフェマッチin五十崎の杜」

「カフェマッチin五十崎の杜」(E-space主催、松井てるみ代表/平岡自治会共催)が3月29日、小田川沿いの五十崎の杜で行われました。

参加者は桜の木の下に並んだ30店舗以上のカフェや雑貨屋で、春のひとつときを過ごしました。松井代表は「小田川の美しい風景を生かした活動。新緑や紅葉の季節にも開き、地域の一大イベントに育てたい」と話しました。



天地堂前のカーブミラーを清掃中

子どもたちの交通安全を願って 東沖自治会がカーブミラー清掃

地域や子どもたちの安全を守るため東沖自治会壮年部(西川武善部長)は4月3日、地区内の通学路にあるカーブミラー14基を清掃しました。

同部では年3回のカーブミラー清掃の他、小学生の通学の見守りも行っています。西川部長は「五十崎地区は狭い道路があり、危険な箇所が多い。子どもたちの安全のため、活動が広がれば」と願います。



司会のらくさぶろうさん(上段左)とワインで乾杯

ワイン造りの夢を広げたい 3年目の内子夢ワイン祭り

「第3回内子夢ワイン祭り」(同実行委員会主催、藤瀨利通会長)は4月19、20の両日、観光ふじブドウ園で開かれました。岐阜県からヘリコプターで駆けつける人など県外からもワインファンが集い、述べ1,500人の来場者で賑わいました。藤瀨会長は「ワインの良さをもっと知ってもらい、ワイン造りを内子の産業として確立していきたい」と意気込みを語りました。



本格的なコースで競技を楽しむ子どもたち

若いお父さんたちも童心に戻って 手のひらサイズの車で熱いレース

「まちの駅なんぜミニ四駆スーパーカップ」(なんぜミニ四駆部主催、城戸和也部長)が4月20日、まちの駅なんぜで行われました。子どもの部など3部門に約20人が参加。大人と子どもが一緒になって、おもちゃの車でレースを楽しみました。城戸部長は「ミニ四駆は、若いお父さん世代が夢中になった遊び。月1回のペースで開催して、地域の活性化に少しでも貢献したい」と話していました。

春の訪れを内子の桜で楽しもう 町内各地の名所で春まつり

桜の花が見頃を迎えた3月下旬から4月上旬、町内各地で春を喜ぶ催しが開かれ、多くの人でにぎわいました。

「野村桜まつり」(同実行委員会、亀井勝委員長)は3月30日、本川地区野村集会所で開かれました。集会所近くにある毛利邸のしだれ桜の開花に合わせて行っており、今年で3回目。亀井委員長は「70本の桜を植樹したので10年後が楽しみ。高齢化が進み大変だが、無理のない範囲で続けて行きたい」と話していました。

龍王公園では3月30日、フィットネスクラブRYUOWとオーベルジュ内子が主催し「龍王さくらまつり」を開催。催し広場では南予のダンススクールが集結し、子どもから大人までさまざまなダンスが披露され、観客を魅了していました。RYUOWの無料開放やキーワードラリーも行われ、多くの家族連れでにぎわっていました。

小田・立石地区では4月6日、尾首の池のほとりで行われた「立石まるごと春まつり」(立石愛鱗会、山内毅会長)が開かれました。参加者は桜と音楽を楽しみながら、名物のスジエビのかき揚げや釜揚げうどんに舌鼓を打っていました。この日は上川地区でも世善桜を楽しむ「上川桜まつり」(上川自治会主催)が行われました。花冷えする天候で室内の開催となりましたが、地域の人々が集まり豚汁や焼きしいたけなどを囲んで楽しみました。その他、石畳地区や城廻地区などで祭りが開かれ、多くの人が春の訪れを楽しみました。

- 1_野村地区のしだれ桜 2_龍王さくらまつり。子どもたちのかわいいダンス 3_相野の花 4_上川桜まつり。住民総出のおもてなし 5_石畳地区「しだれ桜まつり」は手打ちそばが人気 6_尾首の池と桜は絶景



五十崎の自然素材を暮らしの中に 「第19回暮らしの中の手仕事展」

五十崎商工連盟匠会(成田幸子会長)は3月29、30の両日、五十崎風博物館で「第19回暮らしの中の手仕事展」を開きました。9人の職人が和紙や木などを素材にした手作り作品を出展しました。出展者は訪れた人に商品の魅力やこだわりを伝えながら、新商品の手応えを確かめていました。杉火鉢を購入した越智静江さん=松山市=は「素材へのこだわりと職人の技術が詰まった作品。大切に使用したい」と満足そうな表情でした。



作り手と使い手の交流が魅力